

分詞の後置修飾は、和訳(本を読んでいる女の子)から組み立てると必ず語順が崩れます(× the reading a book girl)。発想を変えて、まず名詞を言い、あとから説明を足す英語の語順を「名探偵の指名の仕方」として体験させるのがこの授業案です。教室の中の「～している人」を英語で特定するゲームで、the girl reading a book の型を必然性とともに導入します。

この教材で解決できる悩み

- ・ 分詞が名詞の後ろに来る語順が、和訳経由だと定着しない
- ・ 現在分詞(～している)と過去分詞(～される)の区別への入口を作りたい
- ・ 受験学年の演習づけの中に、体を使う導入の山場がほしい

教材の概要

項目	内容
対象	中学3年(NEW HORIZON 3 Unit 4)
文法項目	現在分詞の後置修飾(過去分詞は次時への布石)
形式	授業案A4・3ページ＋指名フレーズ集＋人物カード
所要時間	50分×1コマ
準備物	印刷のみ(動作を割り当てる指示カードがあると回しやすい)

授業の流れ(50分)

導入: 名探偵の指名ゲーム(15分)

数人の生徒に別々の動作をさせ(本を読む・ペンを回す・窓の外を見る)、教師が名探偵になって犯人を指名します。

- ・ The person reading a book is the criminal!
- ・ No... the boy looking out the window is the real one!

名前を使わず「～している人」だけで特定するのがルール。3～4回見せたあと、生徒に「今、先生はどうやって人を指した？」と問い、「名詞(人)＋している動作」の順に気づかせます。

気づき: 説明は後ろにぶら下げる(8分)

板書で the girl と reading a book を分けて書き、矢印で「後ろから前の名詞を説明」する構造を可視化します。日本語(本を読んでいる女の子)と語順が逆になることを、あえて日本語と並べて見せます。「英語はまず“誰”を言って、あとから“何してる”をぶら下げる」の一言で通します。

展開: 教室名探偵(22分)

グループで1人が「探偵」、他が指示カードの動作をします。探偵は The student ~ing is ... の型で、動作からメンバーを言い当てます。指名フレーズ集(wearing glasses / holding a pen / smiling...)つき。後半は窓の外や写真の中の人物にも広げ、「動いていない状態」も -ing で言えることを体験させます。

まとめ: 過去分詞への布石(5分)

最後に教師が「割れた窓(the window broken by the ball)」を1例だけ見せ、「する側は -ing、される側は別の形。それは次回」と予告して終了。現在分詞と過去分詞を同じ「後ろにぶら下げる仲間」として位置づけて締めます。

指名ゲームでは「その動作をしている人が教室に1人だけ」になるよう指示カードを配るのがコツです。同じ動作の人が複数いると特定できず、活動が止まります。慣れてきたら wearing a blue shirt のように複数条件を重ねさせると、修飾の情報量が自然に増えていきます。

定着・接続

現在分詞・過去分詞の使い分け練習は、当サイトの『分詞SNSキャプション』ワークシート(写真に説明をつける活動)がそのまま定着・活用の続きになります。分詞の後置修飾に慣れた生徒は、次の関係代名詞(the boy who is reading)を「ぶら下げ方がもう1種類増えるだけ」と受け止められます。